

第12回 京都府がん医療戦略推進会議の開催概要

1 日時

令和4年9月30日（金）午前9時30分から午前11時00分まで

2 場所

WEBによる会議

3 出席団体

<がん診療連携拠点病院>

京都府立医科大学附属病院
京都大学医学部附属病院
京都第二赤十字病院
京都市立病院
京都第一赤十字病院
京都医療センター
京都桂病院
宇治徳洲会病院
京都岡本記念病院
市立福知山市民病院
京都府立医科大学附属北部医療センター

<地域がん診療病院>

京都山城総合医療センター
京都中部総合医療センター

<京都府がん診療連携病院>

舞鶴医療センター

<関係団体>

京都府医師会
京都府病院協会

<オブザーバー：京都府がん診療推進病院>

済生会京都府病院
洛和会音羽病院
武田総合病院
京都鞍馬口医療センター
京都民医連中央病院
綾部市立病院

<京都府>

4 議題

- (1) がん拠点病院に関する国からの伝達事項
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による京都府の状況
- (3) 新型コロナウイルス感染症の影響によるがん診療等の状況

5 議事概要・主な意見

(1) がん拠点病院に関する国からの伝達事項

- ・ 本年は国指定のがん拠点病院等の指定更新年にあたる
- ・ 国への提出に向け、今後は各病院にヒアリングを実施予定

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響による京都府の状況

- ・ 令和2年度のがん検診受診者は大きく落ち込んだ
- ・ 令和3年度に検診率は回復したが、令和元年度と比較するとまだ減少傾向のまま
- ・ 令和2年度以降の検診の実施については、市町村が三密対策などの感染防止により検診を実施

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響によるがん診療等の状況

【検診（又は受診）控え（通院の中断）】

- ・ 外来患者数はコロナ禍で一時減少していたが、令和3年度は回復傾向にあり、令和4年度はほぼ回復している。
- ・ 待合室のレイアウト変更による感染対策や、職員の行動指針の強化による感染強化対策に努めた。

【手術等治療の延期】

- ・ 緊急性を要するがん患者については優先的に手術を実施したほか、悪性疾患と外傷疾患を中心に手術室を回した
- ・ 患者の導線を確保するなど、感染対策を行いながら治療を継続
- ・ 入院前にPCRを実施し、感染対策をとった

【診療体制の確保】

- ・ 患者家族の入室の制限や、入院患者への抗原検査の実施により、院内での感染対策を行った
- ・ 職員の感染を防ぐためマニュアル等の作成や、職員への定期的なPCR検査を実施

【相談体制の確保】

- ・ がん相談体制確保のため、ソーシャルワーカー等の対応を検討
- ・ がん相談窓口での対面相談は感染対策を行うだけでなく、時間を制限して実施した他、ハローワークの就労相談もZOOMなどのWEBを活用して実施

【ICTを活用した先進事例（オンライン診察の実施等）】

- ・ WEBによる診療を実施するとともに、iPadを使用した患者への説明機会が増えた
- ・ 家族の面会もiPadを利用して実施

<その他意見等>

- 通常医療をほぼ制限せずに運用できていた病院では、もともと十分な人員体制を確保できていたこともあるが、人員を総動員して当番制で対応するとともに、全診療科で診療を分担して対応。
- コロナへの経口薬については、一部の薬が一般診療でも使用可能となっている。新型コロナウイルスの5類の引き下げは現時点では現実的でないというのが国の見解。
- 今後も京都府のがん対策をどのように進めていくか、各病院の状況も含め、情報共有するための会議の定期的な開催が重要。

以上